

付属資料

1. 高等学校の進路指導に関する、ここ数年～現在に至るまでの課題（自由記述）
2. 調査票

1. 高等学校の進路指導に関する、ここ数年～現在に至るまでの課題（自由記述）

普通科		
分類	テーマ	記述内容
家庭	経済面	お金さえあれば大学には行けるが、大学に行った方が就職で苦しみ、かつ4年間に何を学んでいるか疑問。超一流大学なら行った意味があるかもしれないが、そうでないと卒業後の進路実現が苦難の連続となりそう。特に奨学金を利用し500万の借金を抱えてしまった場合どうするのだろうと思う。家計に問題のある成績優良者は進学しないことが王道になっているように思う。
家庭	経済面	経済的困難者は確実に増加しており、そのような生徒に対する進路指導も課題となってきている。
家庭	経済面	親の経済力の格差が大きくなっている。能力もあり、本人も希望しているにもかかわらず、大学に進学することが困難な生徒が増えている。大学進学にかかる費用の自己負担額を軽減しなければ、大変なことになると思う。
家庭	経済面	経済的理由から入学できた学校での生活が困難になったり、奨学金の返済が卒業後にできるかどうかという問題
家庭	経済面	家庭への経済的負担が厳しくなっている。
家庭	経済面	貧困家庭の増加により、進路選択の幅が狭められていること。
家庭	経済面	家庭の経済力格差が広がっており、一律に進路指導がしにくいこと。
家庭	経済面	貧困家庭の生徒の進路を考慮すること
家庭	経済面	経済的な面で進学できない生徒や自分の意志がはっきり持てない生徒など保護者の影響が大きい生徒への対応。
家庭	経済面	青森県においては、経済的に困難で進学できない生徒や、大学卒業後に確かな就職が約束されていないと困るという家庭があり、学力が高くても進学を勧められないことが多い。
家庭	経済面	学力や家庭の経済力が厳しい家庭が多い。アルバイトをしている生徒が多く、いわゆるブラックバイト的な環境で働いている者も少なくない。進学する場合の資金計画や奨学金の手続等を進路指導部や担任が細かく世話をしている状況がある。アルバイトをせずに学業に専念できるよう、給付型の奨学金制度の充実が求められる。
家庭	保護者	保護者の考え方と本人の考え方の違いがあると指導が難しい。
家庭	保護者	家庭環境（成育歴）、本人の特性など。
家庭	保護者	保護者の理解と協力。
家庭	保護者	保護者に関わる課題の検討が必要。モンスターペアレントだけではなく、子どもの進路を保護者が過剰に束縛したり、収入が少ないことが進路選択に影響を与えている。
家庭	保護者	保護者と生徒のコミュニケーション不足による生徒の進路活動の遅さ。保護者の子どもの教育に対する無関心さ。
家庭	保護者	少子化が原因なのか、親が地元へ残るよう強く働きかけるので、生徒の進路選択の幅が狭くなり、子どもの可能性を失くしているように思う。どのように対処すべきか分からない。まさか、親の意識まで変えられるとも思われない。
家庭	保護者	進路やキャリア教育に関する何らかの保護者への働きかけが必要。貧困家庭の保護者の認識の甘さや保護者が生徒自身に社会性の育成を十分にできなかったために、生徒の進路先での活動が困難になり、途中でドロップアウトすることが頻繁に発生している。そのため、社会での底辺層の生活をすることになり、生徒自身が将来の貧困から抜け出せない。結果として貧困の再生産をすることにつながっている。
教員	意識	生徒の進路にどの程度の深さに関わっていくか教員間における温度差をうめるのは難しい。
教員	意識	教員に社会人としての常識や責任感が欠如しており、「世間知らず」な人間が多く困る。
教員	意識	学校内での進路指導のあり方に対する価値観の差。
教員	意識	主体的に行動させることの重要性を教員が感じていない。今まで通りから脱皮できない教員が多い。21世紀に生きる子供たちをどう育てなければいけないのか？子供たちの選択肢を広げるために何が必要なのかを学校全体で考えなければいけないが、つまらない上からの仕事が多すぎて議論をする余裕がない。
教員	意識	教員の考え方が古すぎる。新しい知識を習得しようとする教員が少ない。
教員	意識	「進路指導・就職指導」＝「キャリア教育」と考えている人が多く、キャリア教育が生き方を示すものであると認識していない人が多いという点が課題である。

教員	意識	教員自体の意識改革
教員	意識	先生方の使命感があがるよう待つ
教員	意識	中には、受験のテクニックや塾産業の動向を気にする職員もいて、学ぶ意義、姿勢を語れない場面を見かける。
教員	意識	生徒に求める多くが学力に偏っている点が気になる。
教員	意識	教員の生徒への関わりが少なくなっている
教員	意識	教員が高齢化し、親もしくはそれ以上の年齢になり、共に悩み考えるというよりも過保護、放任的な指導によって生徒の主体性が育まれないこと（教師側）
教員	意識	社会の変化、生徒の変化、これからの変化予測等に教員が対応しきれていない
教員	スキル	自分の職場では、教育とは何か、人間とはどういう存在か、指導とは何か等の基本的な理解も持たずに試験に合格して専門職たる教員となる若者が多いように感じます。校内でどのように若い先生方を教育するかが課題だと思います。いま一つは、小学校中学校と義務教育で相手にされなかったため本当に基礎学力の無い、最初から無理と決めつけているにもかかわらず、赤点でも先生が卒業させてくれると自信を持っている生徒たちが多く、彼らを成長させるための学習面も合わせた指導の枠組み作りが課題です。
教員	スキル	教員としてのスキルにカウンセリングが重視されていないのは大きな問題。逆に言えば、カウンセリングのスキルを重視すれば、対生徒・保護者に向き合う姿勢が改善できると思う。キャリアカウンセラーを学校に（できれば学年に1人）配置することを義務化してほしい。
教員	スキル	若手教員や経験が不足している教員、また経験があっても最新の情報にうとい教員に研修の場を与えたいが、校務多忙や理解が不充分などで充分研修をうけてもらえない。情報提供も不足がちである。
教員	スキル	キャリア教育推進に関わる研修や学びが教員の資質としての必須条件になっていないこと。
教員	スキル	アクティブ・ラーニングにどのように対応するか。
教員	スキル	教員の勉強不足にも起因するが、社会や入試制度の変化に対応できず、指導できない状況に陥ると危惧している。
生徒	意識	より高いモチベーションを持っていかに次のステップに進ませることができるか
生徒	意識	生徒の意欲面に大きな拡差がある。それが学力差にもつながり、授業面でもかなり影響があると考えられる。
生徒	意識	とにかく、大学、短大に進学できればいいという考えの生徒、保護者が増加してきている
生徒	意識	モチベーションの低い、または困難を避ける生徒が増えていること→生徒の意識の高揚
生徒	意識	地元志向があまりに高い。生徒の多様な力と学力を共に伸ばさせることが、現在の体制（キャパシティ）では、困難を感じる。
生徒	意識	生徒に主体性がなく、人の意見や、特に友人に左右されやすい。進路決定が安易である。
生徒	意識	家庭環境などから、努力をする必要性を感じない生徒（努力をしなくても生きていけると思っている生徒）への対応。
生徒	意識	小中高12年間のスパンで進路指導を考え、適切な受け渡しが必要であること。全体的に生徒の教養的な読書の量が減り、考える力が低下し、幼稚化している。SNSの節度ある利用の仕方などを社会全体で考えていかなければ、自立できず他者依存度の高い個人が増えてしまう。全てを学校単位で背負っていくことは不可能。ただ、目の前の学習にきちんと取り組み成果を上げる体験をすることで、生徒は自信を持てる。そのことが学力の高さ以外にも進路実現にも良い影響をもたらす。学校ができること、そして最低限しなければならないことはその部分であると思う。
生徒	意識	グローバル社会で活躍できる人材の育成。職業についての知識を身につけさせること。
生徒	意識	早期に安易な進路選択をして、学力向上の努力を必要としない状況に安住できる進路志望を選択する生徒が増えている。職業教育を実施して、より高いレベルで学習したいという意欲を喚起したい。
生徒	学力	生徒の学力格差が大きく、一斉指導が厳しい状況にある。
生徒	学力	基礎学力の未定着、学習習慣の欠如、自己管理の甘さ、などを改善すること。
生徒	学力	クラスに幅広い成績の生徒が存在するのでどこに照準を合わせるべきかが難しい
生徒	資質	障害がある生徒の進路を考えること
生徒	資質	コミュニケーションの問題は（自—他）のみならず（自己—自己）においても発生している様に思う。すなわち、他者のみならず、自分の内面と向き合い、内観内省することができない生徒が増えており、意思決定の弱さを生み出している。

生徒	資質	発達障害と思われる生徒が増えている。
体制	学内	学校全体で進路指導をしなければ生徒は本気にならない。教員間で指導内容が違くと全く効果が望めない。新人教員の進路指導経験不足もある。
体制	学内	教員の経験や感覚を主とする指導、議論からデータや調整などしっかりしたエビデンスをもとに考える体制を教員の中に作りたいのですが、なかなかうまくいきません。
体制	学内	生徒と教師がじっくり話をする時間を保障したい。
体制	学内	多様な生徒への対応の仕方が学年毎に違うこと
体制	学内	現状では、授業へ教員が集中して取り組めない。
体制	学内	キャリア教育の必要性や重要性が言われはじめて何年もたつが、依然として「古い」進路意識を持っている者が生徒にも教師にも保護者にも多い。とにかく入学できれば、させてしまえばという意識でいる。これを大きく変革させることがプログラムの的に可能なのかどうか、常に課題である。
体制	学内	キャリア教育の体系化、系統化をおこなったが、それに対する教員のキャリア教育の研修を定期的実施すること。また、課題解決型授業やアクティブラーニング型授業に関する研修と実施
体制	学内	生き方教育がすなわちキャリア教育であることは十分に理解できているが、キャリア教育を充実させるために外部との連携が必要であり、それを専門に行うスタッフがないこと。また、学校教育全体から俯瞰しても時間的な余裕があまりないこと。
体制	学内	進学率の向上
体制	学内	学科が複数にて、教員間の共通理解が難しい。教員数が不足していて、業務が多忙すぎるので、新しいことに取り組みにくい。
体制	学内	来客対応に追われ、週16Hの授業に（チャイム着席）にほぼ毎時間、間に合わない。放課後部活指導のため担任と全く打ち合わせができない。補習が朝しかできない。というか朝も部活があるのだが…
体制	学内	模試の結果で教科指導力が評価される部分大きい。
体制	学内	学校規模が大きく、またコースが細分化されており、教師間の進路指導体制の意志統一が困難。生徒の学力は簡単に上がらない。
体制	学内	(g) (学校としての進路指導の方針やビジョンが不明確で教員間で共有されていないこと) は強く感じます
体制	学内	上記(g)については、進路課として明確なビジョンが立てられていないため、今後考えていくべき課題。(h) (進学や就職の実績の向上) については、学校としては考えるべきであろうが、生徒個々の希望が叶えられることが一番であると思う。ただ進路実現の過程の中で、自己を成長させるということを考えると、ある程度高い目標設定は必要であり、それが結果として実績につながると考える。
体制	学内	本校の進路指導部では、主任・副主任とも他校での進路指導の経験がある。本校は創立90年を超える伝統校であるが、現在は定員割れが数年間続くなど、過去の栄光を感じられないほどの低迷ぶりである。生徒たちが、今後激変するであろう社会に対応できるよう、高校で育てていかなくてはならないと痛感している。まず我々教員が現状、そして今後の社会の動向をしっかりと認識し、普段の指導にあたらなくてはならないと思う。
体制	学内	明らかにスタッフ不足。30年前に比べ、やることが倍以上に増えたのに対し、職員の定員は減らずばかりである。ラインナップばかり増やして人員は減らし、しまいには精神論。これでは潰れる会社と一緒にいる。御機構のように外野ばかり増えて肝心の現場は完全に人不足である。この現状に国も気づかなければならないと切に思う。
体制	学内	人手が少ない。教員間での指導力、経験の差。配置転換などで継承されにくい。
体制	学内	職員間の問題意識の共有→職員全員が学校全体の課題を自分の問題と認識すること。部活動や学校行事とのバランス。
体制	学内	中高一貫の6年間を1スパンとした系統的な進路指導体制を構築すること。
体制	制度	流行に、全体が右向け右になっていく。たとえばキャリア教育の考え方は、従前より行われてきた進路指導の一部分を強調していると思われるが（その考え方には賛同できる）言葉が一人歩きし、キャリア教育と言えば済んでしまうような感じがしている。その言葉の理念を真に実践するというより、押しつけられてやらなくちゃ感が強い。
体制	制度	小中学校では同じような学校格差が少なくなるプログラムが組まれているが高校ではその学校独自の指導が有効的になされるべきだと思う。学校全体の集団の力が低くても、1人の指導者によって変えられると思うので、人材管理を企業並にして配置されたいと考えます。

体制	制度	急激で大きな入試制度の変更（およびその原因となる社会の大きな変化）に対応する学校体制や教育内容の変革が大きな課題です。
体制	制度	大学入試のあり方が大きく変化していくこと。
体制	制度	新テストや大学入試改革にともない「困難」が（特に「地方」の学校にとって）より重くのしかかるのではないかと危惧しています
体制	制度	早期進路決定者への指導→進学先でぜひ出していきたい。大学と就職の関係を同様、早期の青田買いは高校教育に多大な支障が出ます。
体制	制度	2020年入試改革→（入試の公平性、文化の伝承＝教養と創造、学問の独立（大学の自治）を破壊して行く方向）によって、学校教育体制が格差を拡大再生産し、階層を固定化する装置となってしまうことを恐れています。地方公立高校がどうやって、この流れに抗っていくべきかが、重要な検討課題です。
体制	制度	教育改革（大学入試制度）への対応。
体制	制度	求められる人材育成を学校現場におしつけられていること。
体制	制度	普通科の教育が、職業と直結しないこと。一斉教育のあり方が時代にそぐわないこと。
体制	制度	入試制度変革の過渡期であり、来たる変革へ向けての準備をする必要があるが、まだ決まっていないことが多くて対応策を講じ得ない。
体制	制度	新テストについて。
体制	制度	大学入試制度改革への対応策
体制	制度	新テストに向け、指導内容と方法を変更しなければならないと思うが、新テストの概要が未だに明らかになっていないこと。
体制	制度	私立大の過半が定員割れという状況で、そこそこの大学まではA0や推薦を使えば合格できてしまう。そして行き過ぎた学歴批判によって、親も子どもも「よい大学に行ったらよかった」のような認識が広く蔓延しており、そこそこの大学に、安易に、早めに合格を決めてしまう傾向がある。受験は現代に残された唯一と言っていいほどの「通過儀礼」だが、昨今ではその役割を果たさなくなりつつある。子どもは、どういう機会に、何を達成することで大人になればよいのだろうか。
体制	制度	今は、新しく導入される新制度にどう対応していけばいいのか頭を悩ませている。
体制	制度	高大連携システム改革による高校の対応をどうすべきか。
体制	制度	高大接続など大きな変化への対応と情報集めについて。
体制	制度	進学就職の環境は日本経済や社会の動向に大きく左右されています。従って生徒は状況に振り回されているという現実も見逃してはならないと思います。また、進学後の高等教育の在り方にも疑問を抱くような大学も多くあり、改善されるべきものと考えます。
体制	制度	パフォーマンスだけのプロジェクトが多く、本当に必要なことに費せる時間が減っている。
体制	制度	高大接続における入試制度改革後の進路指導
体制	制度	新テストへの対応が具体的に動いていないこと
体制	制度	大学新テストのはあくど対応
体制	制度	数年後にひかえている入試改革がいまだに現実味をおびてこない。（センター試験にかわる新テスト、記述式の導入、基礎学力テスト実施など）
体制	制度	高大接続の入試制度とその対応。
体制	制度	進路指導として、時代に即して変化させる部分と変化させない部分の線引き。
体制	制度	高大接続「改革」の過渡期の犠牲に、いずれの生徒もしたくない。
体制	制度	「実績をあげなくてはならない」と考えること自体非常におかしなこと。生徒の進路は売り物ではない
体制	制度	文科省と現場の高校、大学の感覚が、かけはなれているところ
体制	制度	新しい大学入試への対応
体制	制度	世の中が多様化しすぎて、先のことを考えるのがむずかしい。
体制	制度	上記選択肢（e：入試制度の多様化や変更への対応の困難さ）や（f：教師の負担が多く進路指導の時間がとれない）は強く感じるところです。
その他		地域の方々の応援（期待）が校内に届きにくいこと。
その他		就職に関しては、地域性が課題である。過疎地域にある本校などでは、地元にとどまりたい生徒の選択肢が不足してくる。

総合学科		
分類	テーマ	記述内容
教員	意識	一般受験以外の入試で合格する生徒が多くなり、学校での授業を「受験ありき」ではなく考えなくてはいけないことを先生達がなかなか受け入れられないこと。
教員	意識	進路指導に対する職員間の温度差がかなりあること。→進学指導ができない教員、やっても意味がない・本来の教育でないと言平気で言う教員がかなりいること。
教員	スキル	教師の指導力の向上
生徒	資質	コミュニケーション能力がない生徒が増加した。
体制	学内	担任団と進路指導部との連携、また進路指導部内での協力態勢など、教員サイドの態勢の問題がある。生徒を中心に据えて、保護者・担任・進路指導部が有機的に連携し、生徒本人が納得のいく進路実現を保障していく必要がある。
体制	学内	教師の負担は時間が必要なことで、多くの生徒すべてをカバーできているとは考えられない。土・日を使っても不足です。
体制	学内	管理職の考え方で学校独自の進路指導が変化させられてしまう。2～3年の管理職の為に継続した指導方針が変化している
体制	学内	中堅教員が不足し、ベテランと若年教員に二極化している。指導のあり方やノウハウが継承しづらくなっている。
体制	学内	行政に対する報告業務や、情報の管理、などに時間をとられてしまう。個人の努力や工夫では何ともしがたく、本当に困っている
体制	学内	一部の「声の大きい」人達によって制度が左右されてしまっている現実。
体制	制度	教員の異動が激しく1つの学校で腰を据えて指導できない。
その他		高等学校基礎学力テストの評価が、入社試験で使われないか心配である。
その他		外部からのアンケートや調査が多すぎる。同じような調査が各署から届き、その対応に追われる。また、就職関係では、職種での調査と産業での調査があり、混乱の原因になっている。
専門学科		
分類	テーマ	記述内容
家庭	経済面	安易な奨学金の貸与
家庭	経済面	進学に関して、学費の問題が非常に大きく国策としての対応が望まれる。
家庭	経済面	生徒に関わる課題で、保護者の経済状況が把握しづらい点。
家庭	保護者	保護者と生徒と学校三者の意識のずれをどのようになくしていくのか
家庭	保護者	高校卒業後、就職をして地域へ貢献（地元に住み、働き、生きる）する人材を育成するという取組みは中学生を持つ段階の保護者や中学校教員にはなかなか受け入れられていない現状がある。（高卒後は大学等への進学志向が強いということ、高卒は進学するのが当たり前という意識が強いということ）。高校卒業後に就職をし、企業の持つ高度な技能を身につけ（技能の伝承）、その技を通して社会に貢献して生きていくことも立派な進路選択だという意識を持ってもらいたいと思う。
家庭	保護者	保護者が子供と会話をしていない気がする。生徒の自主性を尊重しているのか、放任なのか不明である。
家庭	保護者	保ご者からのクレーム対応
家庭	保護者	保護者への対応。保護者に説明、協力を求めることが重要、保護者の進路指導への理解が生徒にとって非常に大切である
家庭	保護者	大学進学で、生徒の学力に対して過大な期待を保護者がしている場合が多い。
教員	意識	進路指導部が積極的にガイダンスをやればやるほど、進路指導に関することは全て進路がやること、といった他力本願の職員が増えてきてしまう
教員	意識	高校の進路指導がその後の人生に大きく影響すると私は思っています。でも、同じ思いの人が少なく、もっと進路指導を大事にして欲しいです。
教員	意識	一人一人の教員の目的意識が低く、再度キャリア形成（生徒の）をさせていくテーマをしっかりと持つこと！
教員	意識	進路指導について、特に就職については、あまり関心を持たない教員が少なくない。普通科は大学に何人合格させるかが重要というような風潮があり、そういった学校の教員が専門高校（＝職業系高校）に赴任した場合、非常に問題が多いような気がする。
教員	スキル	教師側の研修の充実を図らなければならないと考えている。

生徒	意識	大学に進学しても就職できるのかわからない、高校で就職した方がよい生徒もいるが、成績がよいのになぜ進学させないのか回りの意見が気になる。高校で就職しても、すぐに辞めてしまうのなら進学して社会の仕組みを学んでから就職してもよいと思う。
生徒	資質	グレーゾーン（発達障がい疑い）の進路指導。
体制	学内	（g：学校としての進路指導の方針やビジョンが不明確で教員間で共有されていない）については、明確にしているはずなのに、教員間の意思統一ができないことが最大の課題
体制	学内	専門高校における一般入試対応のカリキュラムづくりが難しい。
体制	学内	学校内の組織が上手く機能していない。
体制	学内	キャリア教育の中での進路指導としてとらえ、適格に実施すること。
体制	学内	方針やビジョンが明確であるにも関わらず、全体として協力体制ができない。
体制	学内	職員定数
体制	学内	管理職の進路に関する方針にぶれがある（定まっていない）と進路指導は難しい。
体制	学内	公平性の確保しながら進路実績をあげることの難しさ
体制	制度	キャリア教育や道徳教育、さらに政治教育（18歳選挙権）など、次々と新しい計画を立て、実行・報告することが求められ、従来の方法でも良い部分はあるのにどんどん変化のスピードが速くなっている。
その他		ここに書かれている「課題」は、いわゆる進路多様校ではなく、進学校寄りであるとの印象を受けました。
その他		わずらわしい統計調査やアンケートがあること

2. 調査票

高等学校における進路指導・キャリアガイダンスに関する調査

この調査は、全国の高等学校の進路指導担当の先生を対象として、各学校の進路指導の実態やあり方についての意識をお聞きすることを目的としています。回答にあたっては、回答者の個人的な考えで答えていただいて結構です。なお、回答の結果は、すべて統計的に処理され、個別の回答が外部に出ることは決してありません。ご多忙のところ恐縮ですが、本アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成 27 年 月

○調査企画者：独立行政法人 労働政策研究・研修機構 キャリア支援部門（深町・室山）

○調査委託機関（問い合わせ先）：株式会社 : * * *

TEL: * * * FAX: * * * 担当者 : * * *

回答の記入にあたって：

- ①この調査の回答は、進路指導部（課）の中で進路指導を担当される教員の方をお願いするもので、原則として無記名とします。ただ、後日、調査結果がまとまった段階で、結果の送付を希望する方は、最後にご連絡先の記入欄がありますので、お書きください。
- ②本調査票において用いられている進学指導という用語は、主に、大学・短大への進学指導という意味で用いられている点にご留意ください。

回収の方法：

①調査票に直接ご記入の上、同封の返信用封筒にてお送りいただくか、WEBにてご回答ください。

②返却期限 年 月 日

1. 貴校の属性とご回答者についての設問

1-1 貴校の属性について、以下にご回答ください。

a. 設置者

① 国立 ② 公立 ③ 私立

b. 本部所在地

都道府県名

c. 規模

全学年生徒総数

人

d. 中高一貫校ですか。または併設の中学校がありますか。

はい ・ いいえ

e. 系列大学や短大がありますか。

有 ・ 無

f. 学校のタイプ （貴校に最もあてはまるもの1つに○をつけてください。）

①普通科単独校	④総合学科併設校	⑦家政を中心とする高校
②普通科中心で学科併設校	⑤工業を中心とする高校	⑧農業を中心とする高校
③総合学科単独校（移行中を含む）	⑥商業を中心とする高校	⑨その他

g. 直近の卒業生の卒業後の進路について 内に人数の内訳をご記入ください。およその人数で結構です。

進学（四年制大学、短期大学）	→ 約 <input type="text"/> 人	うち、一般入試での進学者数 約 <input type="text"/> 人
進学（専門学校・各種学校）	約 <input type="text"/> 人	
就職	約 <input type="text"/> 人	
進路未定（進学準備）	約 <input type="text"/> 人	
進路未定（その他）	約 <input type="text"/> 人	
一学年の卒業生 総数	約 <input type="text"/> 人	

h. 平成 27 年 9 月末時点での就職者希望者の就職内定率 約 %
 （就職希望者に占める内定者の割合をご記入ください。就職希望者がいない場合は無記入で結構です）。

i. 進路指導の校内組織・体制について、ご回答ください。

1) 進路指導の全体計画や企画の作成を中心となって進める担当者の方は、校務分掌上、次のいずれに該当しますか。あてはまるものを 1 つ選んでください。

①進路指導のみを担当している ②他の担当と兼務している ③担当者はいない

2) 進路指導の実施に関して、進路指導部の全体計画のほかに、各学年が独自に作成している企画や内容はありますか。

①ある ②特にない

3) 進路指導の全体計画や企画の作成を中心となって進める校務分掌上の組織（本務者）は、何人で構成されていますか。→ 約 人

1-2 本調査票のご回答者についてお尋ねします。下記の a~f について、各選択のうちあてはまるもの 1 つに ○をつけてください。

a. 性別 ① 男 ② 女

b. 年代 ①20 歳代 ②30 歳代 ③40 歳代 ④50 歳代以上

c. 高等学校教員としての経験年数 ①10 年未満 ②10 年以上 20 年未満 ③20 年以上 30 年未満 ④30 年以上

d. 現時点でのホームルーム担任 ①担当している ②担当していない

e. 現勤務高校での先生の担当科目 ①国語 ②社会 ③数学 ④理科 ⑤外国語 ⑥その他

f. 進路指導主事（主任）・担当としての経験年数（過去の勤務校での経験年数も含めてください。）
 ① 1～5 年 ② 6～10 年 ③ 11～15 年 ④ 16～20 年 ⑤ 20 年超

2. 学校の進路指導・キャリアガイダンスの実態についての設問

2-1 生徒を対象とした進路指導や情報提供の内容として、現在、貴校で実施しているものいくつかを○をつけてください(複数回答可)。また、実施しているものについては、右欄の対象者にもご回答ください。

	内 容	実施の場合に○ (いくつでも)	対象者 (どちらかに○)	
			対象とする 学年全員	該当者・ 希望者のみ
個別 対応	①進路希望調査			
	②進路に関する三者面談 (教師、生徒、保護者参加)			
	③進路に関する二者相談 (教師、生徒)			
	④ハローワーク職員による個別相談			
情報 提供	⑤大学関係者による説明会・講演会			
	⑥企業関係者による説明会・講演会			
	⑦受験産業関係者による講演会			
	⑧ハローワーク職員による説明会・講演会			
	⑨卒業生による受験体験談や大学紹介			
	⑩進路指導のための資料室や資料コーナーの設置			
意識 啓発	⑪ホームルームや学年集会での進路に関する資料配付と説明			
	⑫職場 (職業) 体験学習			
	⑬ボランティア体験学習			
	⑭保護者、卒業生 (OB・OG) による職業紹介			
	⑮職業適性検査、職業興味検査、進路発達検査等、自己理解のための検査			
対策 講座	⑯大学等受験のための模擬試験 (業者テスト)			
	⑰就職のための模擬試験 (業者テスト: 公務員試験等含む)			
	⑱大学受験のための対策講座 (面接指導、小論文の書き方など)			
	⑲就職のための対策講座 (面接指導、応募書類の書き方など)			
	⑳その他 (具体的に:)			

2-2 進路に関するホームルーム担任と、(a)生徒との個別の計画面接、および(b)進路に関する保護者との面談は、各学年で年間、何回程度行っていますか。学年毎に、①～④のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

(a) 生徒との面接	第1学年	① 1回	② 2回	③ 3回以上	④ 特に行っていない
	第2学年	① 1回	② 2回	③ 3回以上	④ 特に行っていない
	第3学年	① 1回	② 2回	③ 3回以上	④ 特に行っていない
(b) 保護者との面談	第1学年	① 1回	② 2回	③ 3回以上	④ 特に行っていない
	第2学年	① 1回	② 2回	③ 3回以上	④ 特に行っていない
	第3学年	① 1回	② 2回	③ 3回以上	④ 特に行っていない

3. 生徒の進路決定のプロセスに関する設問

3-1 生徒に対して、進路選択 (進学・就職) に目的意識をもたせるような指導は、学校全体として (進路指導担当者以外の先生も含めて)、どの程度、推進されていますか (下記のうち1つに○)。

①十分に推進されている	②ある程度は推進されている	③あまり推進されていない	④推進されていない
-------------	---------------	--------------	-----------

3-2 先生ご自身は、生徒に対して進路選択（進学・就職）に目的意識を持たせるよう指導できていると思いますか（下記のうち1つに○）。

①十分に指導できている ②ある程度は指導できている ③あまり指導できていない ④指導できていない

3-3 下記のような特徴をもっている生徒の割合は、一学年につきどの程度いると思われますか。先生がお感じになっている貴校での割合をご回答ください（それぞれについて①～⑤のうち1つに○）。

生徒の特徴	①20%未満	②20%～40%未満	③40%～60%未満	④60%～80%未満	⑤80%以上
(a) 成績、適性、やりたいこと、将来の仕事などを考えて、主体的な進路選択ができる生徒					
(b) 進学希望者のうち、「大学名にこだわらずに、進みたい学部、専攻したい学科を中心に受験校を決めよう」と考えている生徒					
(c) 進学希望者のうち、「とにかく大学・短大に進学できればいいから、興味のある学部・専攻したい学科に関係なく、入れる大学に進学しよう」と考えている生徒					

3-4 生徒は、自らの進路を最終的に決定するとき、誰の意見を、どの程度考えて決めていると思いますか。各対象者の意見を重視していると思われる程度について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

対象者	①重視している	②やや重視している	③あまり重視していない	④重視していない
(a) 自分自身の希望				
(b) ホームルーム担任教師の意見				
(c) 進路指導担当の教師の意見				
(d) 保護者の意見				
(e) 予備校や塾の担当者の意見				
(f) ハローワークの担当者の意見				
(g) 友人や先輩の意見				
(h) その他（上記以外にあれば、具体的にお書きください。）				

3-5 進路指導の過程において、生徒の進学、進路選択の目標と教師の考える進学、進路選択の目標にずれを感じることはありますか（下記のうち1つに○）。

①よくある ②たまにある ③あまりない ④全くない

3-6 生徒の進学、進路選択の目標と教師の考える進学、進路選択の目標にずれがあった場合、どのように対応しますか（下記のうち1つに○）。

対 応	1つに○
①基本的には、生徒の目標設定にまかせて干渉しない	
②教師としての意見を伝えるが、生徒の目標の再考は本人にまかせる	
③教師としての意見を伝えて、生徒の目標の再検討をうながす	
④その他（自由記述： _____）	

3-7 生徒の進路選択（進学・就職）の目標と教師の考える進路選択（進学・就職）の目標に関して
 ずれが生じる要因としてどのようなことが考えられますか。下記についてあてはまるもの1つに
 ○をつけてください。

ずれが生じる要因として考えられること	①あてはまる	②ややあてはまる	③あまりあてはまらない	④あてはまらない
(a) 進路意識や意欲の低下（生徒自身が自分の進路について十分に調べたり、考えたりしていない）				
(b) 学力や能力との乖離（学力、成績、能力などを考慮せずに、進路を決めている）				
(c) 情報や条件の偏り（進路について十分調べていなかったり、偏った情報に基づいて進路を選んでいる）				
(d) 保護者からの影響（保護者の意見に従って決めており、進路を自分で決めていない）				
(e) 合格可能性のみで決定（興味や性格と関係なく、合格できそうなところから進路を選んでいる）				
(f) 生徒と教師のコミュニケーション不足（生徒と教師が進路に関して話をする時間が十分にとれていない）				
(g) その他（自由記述： <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>				

3-8 生徒に対する進路指導（進学指導・就職指導全般）について、日頃、困っていることはありますか。
 自由にお書きください。

4. 大学・短大等への進学指導に関する設問

4-1 貴校では、大学進学を意識した教育課程（カリキュラム）の編成はどのようになっていますか。
 貴校の現状として最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

①教科を絞らずに、 <u>国公立大学と私立大学への両方の一般入試に対応できるカリキュラム編成</u> としている	②教科を絞って、 <u>主に私立大学の一般入試に対応できるカリキュラム編成</u> としている	③特に大学の一般入試への対応を意識したカリキュラム編成にはしていない	④左記の①～③以外 （自由記述：
--	---	------------------------------------	---------------------

4-2 学業成績が優秀で、経済的にも進学できる環境にある生徒が大学・短大進学以外の進路（就職を含む）
 を希望した場合、どのように指導しますか（下記のうち1つに○）。

①大学・短大への進学を強く勧める。	②大学・短大への進学を一応、勧める。	③本人の希望を尊重する。
-------------------	--------------------	--------------

4-3 大学・短大に進学する実力が無いと思われる生徒が一般入試での進学を希望した場合、どのように
 指導しますか（下記のうち1つに○）。

①他の進路を強く勧める。	②他の進路を一応、勧める。	③本人の希望を尊重する。
--------------	---------------	--------------

4-4 第3学年になって、それまで学校で履修してきた科目や選択してきたコース（理系・文系など）、進路先
 を変更するなどの突然の変更を生徒が希望した場合、どのように指導しますか（下記のうち1つに○）

①受験が不利になるようであれば、 <u>理由にかかわらず変更しないよう説得</u> する	②受験が不利となっても、 <u>納得できる理由であれば、変更が可能かを検討</u> する	③基本的に本人の希望を尊重する。
--	--	------------------

4-5 進学の際の学部学科の決定に際して、生徒は卒業後に就く職種についてどの程度考慮すべきであると思いますか（下記のうち1つに○）。

①卒業後の職種をはっきり絞ってから学部学科を決めるとよい	②卒業後の職種をある程度絞ってから学部学科を決めるとよい	③卒業後の職種の検討は大学に入学後、 <u>1、2</u> 年次に行えばよい	④卒業後の職種の検討は大学に入学後、 <u>3、4</u> 年次に行えばよい
------------------------------	------------------------------	--	--

4-6 高校の教科指導の中で大学・短大への受験指導を行うことをどのようにお考えですか。

(a)～(d)の立場からの意見として見たとき、最もあてはまるところ1つに○をつけてください。

教科指導の中での受験指導を行うことについて	①そう思う	②どちらかといえばそう思う	③どちらかといえばそう思わない	④そう思わない
(a)先生ご自身：教科指導の中での受験指導は必要である				
(b)貴校での先生以外の他の教員：教科指導の中での受験指導は必要であると考えている				
(c)保護者：教科指導の中での受験指導を望んでいる				
(d)生徒：教科指導の中での受験指導を望んでいる				

4-7 大学や短大等への進学を志望する生徒の進学先を考えると、偏差値以外の評価の観点として以下の項目についてどの程度重視しますか。(a)～(p)のそれぞれについて、①～④のうち最もあてはまるものを1つ選んでください。

偏差値以外の評価の観点	①重視する	②やや重視する	③あまり重視しない	④重視しない
(a)生徒の希望に合った内容の学科やコースがあること				
(b)地元や在校生の評判が良いこと				
(c)学生の面倒見が良いこと				
(d)4年間で卒業する学生が多いこと				
(e)中退者が少ないこと				
(f)卒業後の就職状況が良いこと				
(g)学費が安いこと				
(h)学術面でのレベルが高いこと				
(i)学際的研究領域があること				
(j)ゼミが充実していること				
(k)優秀な教員がそろっていること				
(l)外国人教員が多いこと				
(m)海外交流が盛んであること				
(n)サークル活動が盛んであること				
(o)現役での合格率が高いこと				
(p)入試制度が多様であること				
(q)図書館が充実していること				
(r)交通が便利であること				

4-8 大学・短大等への入試制度等に関する次の7つの項目の内容に関して賛成ですか、反対ですか。各項目について、先生のお考えに最も近いものを1つ選び○をつけてください。

入試制度等に関する内容	①賛成	②どちらか といえば 賛成	③どちらか といえば 反対	④反対
(a) 入学は易しく、卒業は難しいという入試方法・大学の制度				
(b) 大学入試制度そのものの多様化				
(c) 入学試験の際の面接の実施				
(d) 入学試験の際の論述式試験（論文試験）の実施				
(e) 推薦入学制度の拡充				
(f) 試験科目数の削減				
(g) 一芸に秀でた生徒を選抜するという入試方法の推進				

5. 学歴および学校歴に関する設問

5-1 学歴および学校歴に関してどのようにお考えですか。各項目について、先生のお考えに最も近いものを1つ選び○をつけてください。

学歴および学校歴に関して	①そう思う	②どちらか といえばそ う思う	③どちらかと いえばそう思 わない	④そう思わ ない
(a) 現在の日本の社会は学歴社会だ				
(b) 日本の社会は、学校歴（＝どこの大学・短大を卒業したか）社会である				
(c) 大学への進学率の高い学校が、すなわち「良い」高等学校である				

5-2 「偏差値の高い有名大学に進学することが、生徒の将来における職業生活、社会生活を有利に導く」という考え方がありますが、この意見に関して、以下の4者の立場のそれぞれについて評定してください。

「偏差値の高い有名大学に進学することが、生徒の将来における職業生活、社会生活を有利に導く」という考え方についての意見	①そう思う	②どちらか といえばそ う思う	③どちらかと いえばそう思 わない	④そう思わ ない
(a) 先生ご自身のお考え				
(b) (先生が判断している) 一般の先生のお考え				
(c) (先生が判断している) 生徒の考え				
(d) (先生が判断している) 保護者の考え				

6. 進学や就職先の選定に関する偏差値の考え方に関する設問

この設問では学外、学内で実施する受験や就職のための業者テストについて伺います。

6-1 生徒に対する進学指導、就職指導の際に業者テストによる模擬試験等の偏差値をどの程度重視しますか（下記のうち1つに○）。

①おおいに重視する	②やや重視する	③あまり重視しない	④重視しない
-----------	---------	-----------	--------

6-2 模擬試験等の結果のうち、特定の大学・短大への「合格可能性」をどの程度重視しますか（下記のうち1つに○）。

①おおいに重視する	②やや重視する	③あまり重視しない	④重視しない
-----------	---------	-----------	--------

6-3 「合格可能性」の少ない進学先、就職先だけを受験しようとしている生徒に対してどのような指導をしますか（下記のうち1つに○）。

①他の進学先、就職先を勧める（安全第一）	②第一志望の進学先、就職先の他に、合格可能性の高い候補を受けさせる	③生徒や保護者の希望に任せる	④特に指導しない
----------------------	-----------------------------------	----------------	----------

6-4 模試等の偏差値を基準とした進学指導、就職指導について、必要性をどの程度感じますか（下記のうち1つに○）。

①必要である	②どちらかといえば必要である	③どちらかといえば必要でない	④必要でない
--------	----------------	----------------	--------

7. 進路指導における生徒の「適性」の把握とその方法についての設問

7-1 進路を考える上で、生徒の適性（進路適性）を主にどのような方法で把握していますか。該当するものすべてに○をつけてください。

適性（進路適性）の把握の方法	いくつでも○
(a) 生徒との面接	
(b) 調査（アンケート）	
(c) 担任による観察	
(d) 進路適性検査（性格検査、興味検査、能力検査など）やガイダンスツール	
(e) 特に把握するための方法をとっていない	

7-2 「適性」には、どのようなものが含まれると考えていますか。以下の10項目それぞれについて、下の4つの基準のうち最も適当と思われるものを選んでください。

適性の概念	①含まれる	②やや含まれる	③あまり含まれない	④全く含まれない
(a) 学力				
(b) 得意教科科目				
(c) 知能（潜在的可能性）				
(d) 性格				
(e) 興味（一般興味・関心）				
(f) 職業興味				
(g) 価値観				
(h) 意欲				
(i) 態度				
(j) 体力				

7-3 生徒の進路を考える上で、その生徒の適性を重視することは必要だと思いますか（下記のうち1つに○）。

①おおいに必要である	②ある程度必要である	③あまり必要ではない	④必要ではない
------------	------------	------------	---------

7-4 自分の適性をより良く生かすための自己理解の徹底に関して、どの程度生徒に指導していますか（下記のうち1つに○）。

①十分に指導している	②ある程度指導している	③あまり指導していない	④全く指導していない
------------	-------------	-------------	------------

7-5 貴校では、「生徒の適性を生かす適切な進路指導」が実践されていると思いますか（下記のうち1つに○）。

①実践されている	②どちらかといえば実践されている	③どちらかといえば実践されていない	④実践されていない
----------	------------------	-------------------	-----------

7-6 生徒の志望と教師からみた生徒の適性が離れている場合、どのように指導しますか（下記のうち1つに○）。

①適性に沿った選択を行うよう強く説得する	②適性に沿った選択も考えるよう忠告する	③本人の志望に沿った選択を認める	④特に指導しない
----------------------	---------------------	------------------	----------

7-7 高等学校全体として、一般に「生徒の適性を生かす適切な進路指導の実現」が困難だとすれば、その主な理由は何であるとお考えですか。下記の(a)～(d)について、①～④のうち最もあてはまる場所に○をつけてください（複数回答可）。その他の理由があれば、(e)にご記入ください。

主な理由	①そう思う	②ややそう思う	③あまりそう思わない	④そう思わない
(a) 適性というよりも学力で進路が左右されるのが現実だから				
(b) 時間的にも物理的にも生徒一人一人の適性を十分把握できないから				
(c) 適性そのものが何であるか捉えにくいから				
(d) 適性につかめたとしても、適性に応じてどう指導すればよいかわからないから				
(e) その他（上記以外にあれば具体的に： _____）				

7-8 生徒の卒業後の進学先や勤務先における適応状態等について、何らかの追跡調査を行っていますか（下記のうち1つに○）。

①毎年実施している	②ときどき実施している	③実施していない
-----------	-------------	----------

8. 適性検査・キャリアガイダンスツールの利用に関する設問

8-1 貴校では、生徒に対する進路指導のために、進路適性検査やガイダンスツールを利用していますか。

①利用している	②利用していない
---------	----------

◆8-1で「①利用している」に「○」をつけた方→ 8-2へお進みください。

◆8-1で「②利用していない」に「○」をつけた方→ 8-6、8-7に回答後、設問9へお進みください。

8-2 **設問8-1で、適性検査やガイダンスツールを「①利用している」と回答した場合のみ、**ご回答ください。下記のうち、進路指導のために利用している検査やガイダンスツールがあれば、いくつでも○をつけてください（複数回答可）。利用している場合は、実施者についてもご回答ください。

進路指導のために利用している検査やガイダンスツール	該当の場合に○	実施者 (該当箇所に○)		
		教員	業者	安定所職員
①総合的な進路適性検査（性格、興味、能力検査を含むもの）				
②クレペリン作業検査				
③厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）				
④職業レディネステスト（労働政策研究・研修機構編）				
⑤職業興味検査				
⑥知能検査（各種）				
⑦性格検査（YG性格検査など）				
⑧カードタイプのツール				
⑨キャリア・インサイト				
⑩その他の検査・ツール（検査名記入： _____）				

8-3 適性検査やツールから得られた結果を進路学習や進路相談で、(A)どの程度利用していますか。また、総合的に見て、結果は、進路学習や進路指導において、(B)どの程度、役立てられていると思いますか。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

(A) 利用度	①おおいに利用している	②ある程度利用している	③あまり利用していない	④全く利用していない
(B) 役立ち度	①役立てられている	②どちらかといえば役立てられている	③どちらかといえば役立てられていない	④役立てられていない

8-4 先生ご自身が、生徒の進路指導のために適性検査やガイダンスツールを利用したり、説明することはどの程度ありますか。行っている場合、検査やツールの使い方はどのようにして習得しましたか（研修への参加など）。

①よく行っている	②ある程度行っている	③あまり行っていない	④行っていない
----------	------------	------------	---------

↓ ↓
 どのようにして習得（自由記述）：

8-5 適性検査やガイダンスツールを利用するメリットは何ですか。(A) 生徒本人にとって、(B) 先生にとって、という2つの立場に分けてお答えください(各項目、あてはまるもの1つに○)。

立場	どのような点で有効か	①あてはまる	②ややあてはまる	③あまりあてはまらない	④あてはまらない
(A) 生徒本人にとっての有効性	(a) 生徒が進路の適性や将来の進路に関する可能性を考えたり、興味を持てること				
	(b) 生徒が自己理解を深められること				
	(c) 生徒が自主的に進路設計や進路選択を行うための資料となること				
	(d) 生徒の進学や就職意識を高めること				
	(e) 学力の要因は適性の一部の要因であることを生徒が理解できること				
(B) 先生にとっての有効性	(a) 生徒の進路適性の可能性や興味傾向が把握できること				
	(b) 生徒本人が気づいていない能力や資質を掘り起こすこと				
	(c) 生徒の進路設計への態度や価値観が把握できること				
	(d) 生徒の諸特性を客観的に捉えることができること				
	(e) 教師が漠然と考えていることが明確になること				

→ 回答が終わりましたら、設問9へお進みください。

- 8-6 **設問 8-1 で適性検査やガイダンスツールを「②利用していない」と回答した場合のみ、ご回答ください。**
適性検査・ツールを利用していない理由は何でしょうか。各項目について、①～④のうち、先生のお考えに最も近いもの1つに○をつけて下さい。

利用していない理由	①あてはまる	②ややあてはまる	③あまりあてはまらない	④あてはまらない
(a)実施する時間がうまくとれないから				
(b)実施しようとしても学校全体の理解が得られないから				
(c)経費がかかるから				
(d)教員の中で足並みをそろえるのが難しい（意見が分かれている）から				
(e)解釈が難しいから				
(f)どのような適性がどのような進路に向いているかわからないから				
(g)適性検査の結果は一時的なもので参考にならないから				
(h)生徒自身の進路の明確な決定につながらないから				
(i)生徒は学力の要因に比べて適性の要因をあまり重視していないから				
(j)生徒自身が適性検査の結果に関心を示さないから				
(k)市販の適性検査は担任の観察等に比べて信頼できないから				
(l)信頼できる適性検査がいまだに開発されていないから				
(m)就職希望者がいないので実施の必要がないから				

- 8-7 進路指導にあたり、適性検査やガイダンスツールを導入することの必要性をどの程度感じていますか（下記のうち1つに○）。

①おおいに感じている	②ある程度感じている	③あまり感じていない	④全く感じていない
------------	------------	------------	-----------

以下、全員ご回答ください。

9. 高等学校での現在の進路指導の理念と課題に関する設問

- 9-1 広い意味での進路指導の理念（生き方、職業的自己実現の教育）や、実践されている諸活動（主に進学準備）とに関連する以下の3つの項目（a～c）について、どのようにお感じになっていますか。各項目について右欄の重視度のうち、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

理 念	①重視している	②やや重視している	③あまり重視していない	④重視していない
(a)進路指導を人間としての生き方、人生設計や職業的・専門的自己実現の教育の一環として実践する				
(b)高2、高3からではなく、入学当初から進路指導を行い、生徒が適切な進路先を主体的に選択するように援助する				
(c)教科・科目の指導において、人間としての態度や価値観の育成、資質の養成等について十分考えて指導する				

9-2 高等学校での進路指導に関して、ここ数年～現在に至るまで、どのようなことが主な課題となっていると思われますか。それぞれについてあてはまるもの1つに○をつけてください。

対象	課題内容	①そう 思う	②やや そう思う	③あまり そう思わ ない	④そう思 わない
生徒に関 わる課題	(a) 学業成績や、やる気等に関して、意識の高い生徒とそうでない生徒が分かれ、一律の指導が難しいこと				
	(b) 中退、不登校、不適応などで将来の進路における困難が予想される生徒が増えていること				
	(c) 授業についていけないなど学業面で問題を抱える生徒への対応				
	(d) 友人や教師とのコミュニケーションがとれない生徒への対応				
体制に関 わる課題	(e) 入試制度の多様化や変更にともない、学校での指導や対策が難しくなっていること				
	(f) 教師の負担が多く、進路指導の時間が十分分にとれないこと				
	(g) 学校としての進路指導の方針やビジョンが不明確で、教員間で共有されていないこと				
	(h) 進学や就職の実績をあげなくてはならないこと				

◆9-2に記載されていることの他に、検討課題が何かありましたら自由にお書きください。

--

10. 進路指導に関する教員研修についての設問

10-1 これまでに進路指導のスキルや能力を伸ばすような研修や、セミナー、勉強会にどの程度、参加していますか（下記のうち1つに○）。

①毎年、3回以上、参加している	②毎年、1～2回程度、参加している	③数年に1～2回程度、参加している	④あまり参加できていない
-----------------	-------------------	-------------------	--------------

10-2 上記10-1で①～③を選択された方のみお答え下さい。研修やセミナー等で学習した内容は、日頃の進路指導にどの程度生かされていると思いますか（下記のうち1つに○）。

①十分に活かされている	②ある程度、活かされている	③あまり活かされていない	④活かされていない
-------------	---------------	--------------	-----------

◆以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

結果がまとまった段階での情報提供が必要な場合は、以下にご連絡先をご記入ください。後日、何らかの形で全体の結果が参照できるよう、ご報告させていただきます。

貴校名	ご所属先電話番号 TEL ()
ご回答者様のお名前	E-Mail

JILPT 調査シリーズ No.167

高等学校の進路指導とキャリアガイダンスの方法に関する調査結果

発行年月日 2017年3月31日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

(照会先) 研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104

印刷・製本 有限会社 太平印刷

©2017 JILPT Printed in Japan

* 調査シリーズ全文はホームページで提供しております。(URL:<http://www.jil.go.jp/>)